

アンケート結果と自己評価・今後の改善策

【総合判定】A: 肯定率の平均が90%以上

B: 肯定率の平均が60%以上90%未満

※ 肯定率→評定(%)の
評定4と評定3の合計値

【評定】 4: とても思う(あてはまる)

2: あまり思わない(あてはまらない)

3: やや思う(あてはまる)

1: 全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目番号	対象	設問	総合判定	肯定率	評定(%)					評定平均	概要	課題等 ◆改善策	
						4	3	2	1					
学校は、松山の授業モデルのもとに、一人一人が分かる喜び、共に学ぶ喜びを実感できる授業を行っている。	1	保護者	お子さんは、学習の基礎・基本が身に付き、考える力が高まっている。	A	86%	24%	62%	11%	3%	3.1	・分かる授業や学び合いについては、全体的に肯定的な評価を得ている。 ・学習における考える力や基礎・基本の定着等については、課題の残る評価となっている。	○自ら問いを見付け、考え、解決しようとする授業を通して、更なる基礎、基本の定着も行っていく必要がある。 ◆今後も、全教職員が共通理解のもと、全員参画・全員成長の授業づくり、聴き合い・学び合いの生まれる授業づくりに取り組んでいきたい。 ◆学習課題の提示や振り返り、対話や学び合いをすべての授業で日常化する。 ◆聴き合い、学び合いの質を高め、自立的に学ぶ集団を育てる。 ◆年度当初に提案した、風タイム・朝学習・読書(各学年ごとに、曜日別に学活・教科・読書を実施する曜日を設定・周知済み)の確実な実施を心掛けていく。		
		教職員	授業では、めあての提示や振り返りを行い、一人一人によく分かる学習指導を行っている。		100%	30%	70%	0%	0%	3.3				
		児童	あなたは、授業の内容がよく分かりますか。		95%	58%	38%	5%	0%	3.5				
	2	保護者	0	A	100%	19%	81%	0%	0%	3.2				
		教職員	授業では、対話や学び合いを日常化し、主体性や自ら考える力を高めようとしている。		100%	19%	81%	0%	0%	3.2				
		児童	あなたは、進んで互いの考えを伝え合ったり聴き合ったりして、友達と学び合いながら学習に取り組んでいますか。		95%	53%	41%	5%	0%	3.5				
学校は、教科等の指導においてタブレットの活用等効果的にICTを活用している。	3	保護者	学校は、タブレットなどのICT機器を積極的に活用し、よく分かる授業を行っている。	A	93%	29%	64%	6%	1%	3.2	・一人一台端末が配付され日々の活用を進めてきたことで、全体的に良好な結果を得ることができているが、保護者の肯定率はやや劣る。	◆タブレット端末を活用している授業風景をホームページや学校便り等でより一層知らせる。		
		教職員	授業等では、日常的にタブレット等のICT機器を活用し、リテラシーと学力の向上を図っている。		100%	42%	58%	0%	0%	3.4				
		児童	あなたは、タブレットを使うことで、学習がよく分かり楽しくなりましたか。		95%	70%	24%	5%	0%	3.6				
学校は児童の学力や体力の状況を把握し、それらの充実に向け計画的に指導を行っている。	4	保護者	お子さんは、自分から進んで家庭学習や読書に取り組んでいる。	B	61%	15%	45%	33%	6%	2.7	・自分から進んで・・・という設問であるため、児童が宿題をきちんとするだけでは十分でなく、自学ノート等を中心とした自分で考えて進んで取り組むにもしっかりと、じっくりと取り組んで欲しいという保護者の願いがあるのではないかと感じる。	◆EILSによる学力テストやチャレンジテスト、ふり返りテスト、十分間テスト等の結果を児童のタブレットで返却するだけでなく、傾向や対策等を個別懇談や参観日後の学級懇談、学年便りなどで保護者に発信する。また、基礎・基本の内容で課題の見られた教科・領域・単元について、タブレットドリルやプリントを活用しながら、朝学習や家庭学習(宿題)で復習し、定着を図る。		
		教職員	学校は、学力調査や評価テスト等の結果に基づき、個人や学級の課題を把握し、指導の改善を図っている。		100%	34%	66%	0%	0%	3.3				
		児童	あなたは、自分の課題を改善しようと、進んで家庭学習や読書に取り組んでいますか。		87%	46%	41%	12%	1%	3.3				
	5	保護者	お子さんは、自分の体力に関心を持ち、学校や家庭で、進んで体を動かし、体力を高めようとしている。	B	65%	27%	38%	30%	5%	2.9			・体力向上の意識について、教職員と児童の肯定率は85%以上と全体的に高い割合であるが、保護者は65%であり、やや低い傾向にある。	○児童の体力向上の意識、またそれに向けて努力する姿が保護者へ伝わりづらい傾向がある。今年度から校内マラソン大会を計画・実施することで目標をもって業間マラソンを行い児童一人一人の意欲を向上させることができたため。来年度緒も継続して行っていく。 ◆体育の授業や体育的行事を引き続き行い、そのような取組をホームページなどを通して保護者へ周知していきたい。 ◆外遊びをこれまで以上に奨励し、体力づくりの一助とする。
		教職員	学校は、新体力テスト等の結果を踏まえ、体育科や縦割り班活動などで、体力及び身体機能の向上を図っている。		100%	36%	64%	0%	0%	3.4				
		児童	あなたは、自分の体力に関心を持ち、学校や家庭で、進んで体を動かして体力を高めようとしていますか。		85%	58%	26%	12%	3%	3.4				
学校は、人権・同和教育の視点に立ち、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	6	保護者	学校は、いじめ・不登校等、保護者の相談に真摯に対応し、問題の解決に努力している。	A	92%	33%	58%	7%	1%	3.2	・いじめや差別を許さない意識について、肯定率は90%以上と全体的に高い割合であるが、教職員と児童の割合に対して、保護者はやや下回っている。	○いじめ事案については、児童から事実確認を行い、保護者に報告した上で、対応し解消に向けて現在継続的に見守っている。11月にいじめに関する保護者対象のアンケートを実施して情報を収集し、一つ一つ対応した。 ○学校に登校しにくい児童は数名いる。 ◆いじめや不登校を未然に防ぐために、温かい学級づくりや人間関係作りに努めていく。また、困りごとが起こった場合には、すぐに学級担任や保護者に相談するように言葉掛けをする。 ◆不登校については、本人や保護者の意思を尊重しつつ、実情に応じた対応を丁寧に行う。必要に応じて関係機関との連携を促進する。 ◆自分のよさ、周りの人のよさ、人間のよさを見つめ、考える道徳を粘り強く続ける。		
		教職員	学校は、いじめや差別を許さない意識や、正しいと思うことを勇気を出して行う児童を育てている。		100%	78%	22%	0%	0%	3.8				
		児童	あなたは、学校や学級で安心して楽しく過ごさせていますか。		97%	72%	25%	3%	0%	3.7				
	7	保護者	0	A										
		教職員	0											
		児童	あなたは、いじめや差別を許さない気持ちを強くもっていますか。		96%	73%	23%	3%	1%	3.7				
学校は「学校の決まり」など生徒指導体制の見直しを行い、児童の実態に応じた適切な指導を行っている。	8	保護者	お子さんは、安心して学校に通い、楽しく学校生活が送れている。	A	96%	64%	33%	3%	1%	3.6	・「学校の決まり」については、概ね児童の実態に応じた適切な指導が行えていると評価されている。	○「学校の決まり」は年度当初に児童と保護者に文書を配付している。窪田小HPにも掲載している。また、冬季の服装については、学校だよりでも伝えた。 ◆子供自身に「学校の決まり」の見直しをさせたり、毎月の生活目標を考えさせたりすることで自ら考え、決まりを守ろうとする児童を育成する。		
		教職員	学校は、児童と共に決まりや約束などの見直しを行い、自らよりよい学校をつくっていくこととする意識や態度を育てている。		95%	58%	37%	5%	0%	3.5				
		児童	あなたは、学校や学級の決まりや約束を大切に、よりよい学校にしたいと頑張っていますか。		98%	69%	29%	2%	0%	3.7				
学校は、将来に夢を持ち、自分の進路や生き方について考える児童を育てている。	9	保護者	お子さんは、自分の夢や目標を持ち、それに向かって希望をもって生活している。	B	73%	24%	49%	22%	5%	2.9	・おおむねの児童が夢や目標を持ち、それに向けて生活していると感じているが、それを感じていない保護者が多い。	○児童の夢や目標、またそれに向けて努力する姿が保護者へ伝わりづらい現状がある。昨年度からキャリアパスポートに将来の夢などを記入する欄を設け、保護者に見ていただくようにしている。 ◆各学年に応じた、キャリア教育の視点に立った授業の実践を続けていき、その取組をホームページや学校だよりなどを通して保護者へ周知していきたい。 ◆学期に1回程度のキャリアパスポートの持ち帰りをし、保護者の方への啓発を行っていく。 ◆自分の夢や希望、なりたい自分を思い描く力、語る力を育てる。		
		教職員	学校は、将来の夢や生き方について希望をもって考える児童を育てている。		95%	53%	42%	5%	0%	3.5				
		児童	あなたは、夢や目標を持ち、それに向かって努力していますか。		93%	64%	29%	6%	1%	3.6				
学校は、児童に交通安全やけが等の防止について適切な指導を行うとともに、安全な環境づくりに努めている。	10	保護者	学校は、交通安全やけが等の防止等の適切な指導を行い、事故防止と安全な環境づくりに努めている。	A	96%	47%	49%	3%	1%	3.4	・児童に対する交通安全やけが等の防止についての指導は、概ね適切に行われ、安全な環境づくりに努めていると捉えられている。	○早く下校する日や長期休業前には、交通安全や公園の正しい使い方を言葉掛けている。 ○多くの児童が、自転車に乗る場合にヘルメットを着用できている。 ◆児童の安全意識を高めるために、通学班長会などで毎日の登下校時に安全を自分達で確認することを呼び掛けていく。また、廊下の歩き方や教室の整理整頓などを心掛け、けが防止に努める。		
		教職員	学校は、交通安全やけが等の防止等の適切な指導・対応を行い、安全な環境づくりと自分を守る力の育成ができています。		100%	74%	26%	0%	0%	3.7				
		児童	あなたは、事故やけがのないよう危険を予測し、自分と周りの人の命と安全を守って生活できていますか。		96%	73%	23%	4%	0%	3.7				
	11	保護者	0	A							・できている(頑張っている)と答えている児童が多い。	○分担当した場所を責任もって掃除したり、低学年にやり方を教えたりする姿がみられる。 ◆音楽の合図で無言で掃除場所へ移動し、すぐに取り掛かることを今後も指導していきたい。		
		教職員	0											
		児童	あなたは、清掃の時間に、時間いっぱい隅々まで、きれいにしようと頑張っていますか。		98%	77%	20%	2%	0%	3.8				

アンケート結果と自己評価・今後の改善策

【総合判定】A: 肯定率の平均が90%以上

B: 肯定率の平均が60%以上90%未満

※ 肯定率→評定(%)の
評定4と評定3の合計値

【評定】

4: とても思う(あてはまる)

2: あまり思わない(あてはまらない)

3: やや思う(あてはまる)

1: 全く思わない(あてはまらない)

松山市評価項目	項目	番号	対象	設問	総合判定	評定(%)					評定平均	概要	課題等 ◆改善策
						肯定率	4	3	2	1			
学校は個々の健康状態を確認するとともに、環境衛生の維持・改善を行い、児童の健康の保持・増進に努めている。	かな体の育成	12	保護者	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」を守って生活できている。	A	86%	37%	49%	13%	2%	3.2	・規則正しい生活については、ほとんどの家庭において、実践できている。 ○規則正しい生活については、発達段階に応じた指導を学校で行ってはいいるが、全員の望ましい生活習慣形成までには至っていない。 ○テレビ・インターネット・ゲームの利用時間が多く、不規則な生活になっている児童がいる。 ◆ほげんだよりを発行し、児童自らが規則正しい生活の実践をしたり、寝る前のテレビ・インターネット・ゲームの利用について家庭の協力を得られたりするよう啓発する。また、学級活動における指導や情報モラルの約束を利用するなどした指導を継続していく。 ◆自分の生活の時間の使い方を振り返る学習を1年に1回は行う。	
			教職員	「早寝・早起き・朝ごはん」やインターネット等の適切な使い方など、望ましい生活習慣の形成に努めている。		100%	28%	72%	0%	0%	3.3		
			児童	あなたは、「早寝・早起き・朝ごはん」を守って生活していますか。		86%	48%	38%	13%	1%	3.3		
学校は「3つの密」を徹底的に避ける、「マスクの着用」及び「手洗いなどの手指衛生」など、校内における新型コロナウイルス感染症対策を適切に行っている。	13	保護者	学校は、感染症対策を適切に行うとともに、子供たちの健康の保持・増進に努めている。	A	98%	46%	53%	1%	1%	3.4	・新型コロナウイルス感染症対策については、命に関わる内容のため、保護者の関心も高く、学校・家庭が協力して実践できている。 ○感染経路期になり児童の3密回避行動の意識が緩んできている部分も見受けられる。		
		教職員	学校は、感染症や熱中症対策を適切に行い、児童の健康の保持・増進に努めている。		100%	74%	26%	0%	0%	3.7			
		児童	あなたは、感染症を防ぐために、状況に応じてマスクをつけたり、手洗いをしたりすることができていますか。		100%	79%	21%	0%	0%	3.8			
学校は、特別支援教育の視点をもって、取り組み、個に応じた配慮や指導を適切に行っているか。	特別支援	14	保護者	学校は、特別支援教育の視点を取り入れ、一人一人の特性に配慮した指導や対応を行っている。	A	91%	31%	60%	7%	2%	3.2	・教職員には、まだできることがあるのではないかとこの考えから、評価が低めに出ている。 ○学級担任、コーディネーター、保護者で教育相談を行った。児童にとって一番適切な支援を共に考える機会をもつことができた。 ◆授業や教室環境にユニバーサルデザインの視点を取り入れ、どの子にとっても分かりやすい支援を行っている。また、児童の困りごとを適切に把握し、保護者と協力する対応を継続していく。 ◆特別な支援が必要な児童が生き生きと楽しく活動できる学校が本当によい学校だという共通認識をもち、教師自身が特別支援教育について学び続ける。	
			教職員	学校は、特別支援教育及びユニバーサルデザインの視点を取り入れて、一人一人の特性に配慮した指導や対応を行っている。		100%	58%	42%	0%	0%	3.6		
			児童	0									
学校は、新型コロナウイルス感染症対策や相談事案等、管理職や学年主任等を中心として組織的に対応を行っている。	組織運営	15	保護者	学校は、感染症対策や相談事等に学校全体として協力して素早く対応している。	A	95%	43%	52%	4%	1%	3.4	・教職員は100%、保護者は95%と学校における感染症対策や相談事の対応について、ほとんどの方が肯定的に捉えていただいている。校長のリーダーシップの下、共通理解を図ったうえで、全校的な取組が保護者にも伝わっているようだ。 ○新型コロナウイルスをはじめとした感染症に関する情報を定期的に発信したり、相談事への対応について、即日対応に努めたりして、児童だけでなく保護者も安心することができるよう対応していく。	
			教職員	学校は、感染症対策や相談事等に管理職や主任を中心として、組織的かつ迅速に対応している。		100%	74%	26%	0%	0%	3.7		
			児童	0									
学校は、子どもたち一人一人が分かる授業づくりや、様々な教育課題への対応のため、積極的に研修に取り組んでいる。	研修	16	保護者	学校は、様々な今日的な課題(情報モラル・SDG'sなど)に対応する教育活動を工夫して実施している。	A	92%	26%	66%	7%	1%	3.2	・参観授業や日々の取組が児童を通じて伝わっており、教職員の研修については、肯定的な意見が多くなっている。研修で身に付けた力が様々な教育活動の中で生かされていると考えられる。 ○今後も全員参画の校内研修や自己研修を積み重ねることで、教職員の指導力を向上させ、一人一人が分かる授業づくりを継続していきたい。 ◆目指す子供像・授業像を共有し、授業の中核とする。	
			教職員	学校は、積極的に研修に取り組み、目指す授業像を共有し、着実に成果を上げている。		100%	74%	26%	0%	0%	3.7		
			児童	0									
学校は、教育活動の充実に向けて地域や保護者と連携・協力している。	保護者・地域連携	17	保護者	学校は、保護者・地域の方々の協力や参画を得て、教育活動の充実や地域との相互理解に努めている。	A	96%	47%	49%	3%	1%	3.4	・保護者、教員ともに、おおむね良好な結果である。 ○コロナの制限が前年度より緩和されたため、外部の方との交流が充実してきた。(1年昔の遊び、2年町探検、3年校区探検や消防署見学、4年高齢者疑似体験やクリーンセンター見学、5年稲刈り、6年植輪作りなど) ◆今後も、コロナの収束を見据えながら、徐々に体験活動や外部との交流を充実させていきたい。	
			教職員	学校は、保護者及び地域の人材や環境を生かし、教育活動の充実と郷土愛の醸成に努めている。		100%	74%	26%	0%	0%	3.7		
			児童	0									
学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、積極的に情報を発信している。	18	保護者	学校は、学校・学年だよりやホームページ等により、教育活動の様子をよく伝えている。	A	96%	61%	35%	4%	1%	3.6	・保護者・教職員ともに良好な評価を得ている。 ○学校からのお知らせをこまめにホームページで発信できているので、継続していく。		
		教職員	学校は各種便りやホームページ等により、保護者や地域への情報発信に努めている。		95%	69%	26%	5%	0%	3.6			
		児童	0										
学校は、板書の工夫等の言語活動の整備及び展掲の充実等の環境整備に努めている。	教育環境整備	19	保護者	学校は、来訪者にも分かりやすく潤いのある展掲の充実等に努めている。	A	94%	40%	54%	5%	1%	3.3	・自由に保護者が学校の中に入れない雰囲気があったので(コロナ感染症の点で)各学年フロアにある展掲を見ただけ機会が限られていた。 ・児童については、自分自身の整理整頓について振り返り、やや不十分結果となっていると考えられる。 ○保護者の方はあまり見る機会のない中で、どちらかと言えばよい評価をくださっており、ありがたい。くぼたっこギャラリーの展示を、学期に1回以上変えられるよう全校的に取り組んでいきたい。 ◆1日や週の中で、意図的に整理整頓をする時間を設けるなどして、教室環境への意識を高めていく。	
			教職員	学校は、展掲の充実等、環境整備に努めている。		100%	64%	36%	0%	0%	3.6		
			児童	あなたは、教室等の美化や整理整頓に気を付けていますか。		90%	50%	40%	9%	1%	3.4		
学校は、小1プロブレムや中1ギャップの解消につなげるために関係園・校で連携し、児童生徒の学校生活に対する不安感の軽減を図っている。	幼保小中連携	20	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校と連携して、入学や進学に向けて、適切な説明、対応を行っている。	A	96%	36%	60%	2%	2%	3.3	・教職員や保護者においては、入学、進学に向けて幼保小中が連携した対応におおむね満足している。 ・児童については、中学進学への意欲や希望に個人差が見られる。 ○幼保小中連携推進事業におけるオープンスクール等を通して、小中の連携は深まったが、コロナ感染症の影響があり、幼保小の交流を行うことができず、互いの理解が十分進んでいない。 ○4年目を迎えた幼保小中連携事業を通して、よりよい連携の在り方を模索してきたことで、様々な成果は得られたが、今後も全ての取組を継続することは難しい。 ◆どんな状況においても実施可能な交流方法を探るとともに、入学後のスタートアップカリキュラムの見直しを図る。 ◆今後もよりよい関係づくりと児童生徒の相互理解のため、有効かつ持続可能な取組を計画し、継続的に取り組んでいく必要がある。 ◆子供を中心に、どんな連携が最も大切か考える。	
			教職員	学校は、各園、小中学校との交流や連携を通して、小1プロブレムや中1ギャップの解決を図っている。		95%	58%	37%	5%	0%	3.5		
			児童	あなたは、オープンスクールなどを通して、中学校進学への意欲や希望が高まりましたか。(6年・11月のみ)		80%	45%	35%	12%	9%	3.2		
学校は、教育の質の向上のために関係園・校で連携し、学校間の系統性を重視した学習指導を行っている。	21	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等のつながりのある学習指導を行っていますか。	A	85%	26%	59%	14%	1%	3.1	○幼保小中連携推進事業におけるオープンスクール等を通して、小中の連携は深まったが、コロナ感染症の影響があり、幼保小の交流を行うことができず、互いの理解が十分進んでいない。 ○4年目を迎えた幼保小中連携事業を通して、よりよい連携の在り方を模索してきたことで、様々な成果は得られたが、今後も全ての取組を継続することは難しい。 ◆どんな状況においても実施可能な交流方法を探るとともに、入学後のスタートアップカリキュラムの見直しを図る。 ◆今後もよりよい関係づくりと児童生徒の相互理解のため、有効かつ持続可能な取組を計画し、継続的に取り組んでいく必要がある。 ◆子供を中心に、どんな連携が最も大切か考える。		
		教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、指導の連続性や課題の共有に努めている。		95%	20%	75%	5%	0%	3.2			
		児童	0										
学校は、関係園・校で連携し、児童生徒に対する教職員の理解や、児童生徒の相互理解の促進を図っている。	22	保護者	学校は、幼稚園・保育園・中学校等と連携して、子供の理解に努めていますか。	A	87%	27%	60%	12%	2%	3.1	○幼保小中連携推進事業におけるオープンスクール等を通して、小中の連携は深まったが、コロナ感染症の影響があり、幼保小の交流を行うことができず、互いの理解が十分進んでいない。 ○4年目を迎えた幼保小中連携事業を通して、よりよい連携の在り方を模索してきたことで、様々な成果は得られたが、今後も全ての取組を継続することは難しい。 ◆どんな状況においても実施可能な交流方法を探るとともに、入学後のスタートアップカリキュラムの見直しを図る。 ◆今後もよりよい関係づくりと児童生徒の相互理解のため、有効かつ持続可能な取組を計画し、継続的に取り組んでいく必要がある。 ◆子供を中心に、どんな連携が最も大切か考える。		
		教職員	学校は、各園、小中学校の保育・授業参観等を通して、教職員同士の相互理解を図っている。		95%	27%	68%	5%	0%	3.2			
		児童	0										